

ヨコハマ人・まち

-まちの人がまちをつくる-

●発行：横浜市 都市整備局 地域事業部 地域整備支援課 Tel:045-671-2696 Fax:045-663-8641
Email:tb-chiikishieni@city.yokohama.jp
[ヨコハマ人・まち 目次] ……◆地域まちづくりの実践事例



◆地域まちづくりの実践事例

平成18年3月4日(土)に、横浜市中区開港記念会館で、西・中・南・磯子の各区役所の共催で「知りたい・自慢したい・まちづくりのホントのところ 地域まちづくり講座」が開催されました。この講座で、各地域から報告された実践事例を、ご紹介します。

●山手まちづくり推進会議(中区)

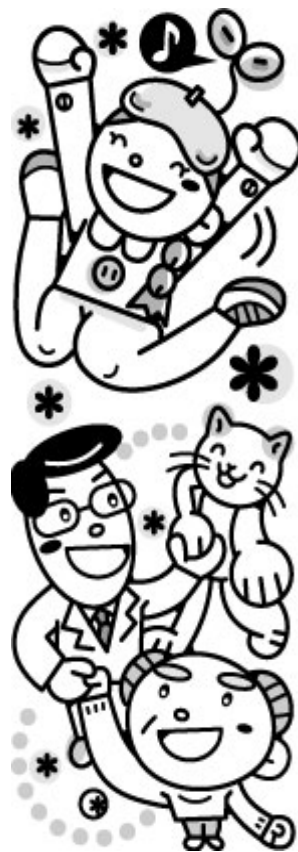
山 手まちづくり推進会議は山手東部町内会と山手西部自治会がいっしょになったまちづくり組織です。平成13年に、山手町に大型マンションが建設され、そのときの反対運動を契機に、翌年山手まちづくり推進会議を発足させました。

平 成16年には、山手地区の一部である84.3haを対象に山手町地区地区計画をつくり、横浜시에提案し、続いて山手まちづくり協定をつくり、平成17年6月に運用を開始しました。

こ の地区内で新改増築や新たな開発等を行う場合は、山手まちづくり協定運営委員会に申請してもらい、協定の基準にあっているか月1回審査をして迅速に対応しています。これまでに31件の申請がありました。

また、山手地区の環境などについて説明した山手まちづくりガイドを作成し、各家庭に配布したり、情報誌「山手まちづくり通信」を5年間で26号発行してきました。

ま ちづくりには、議論を積み重ねて住民同士の意思を確認することと、議論を形成することが必要です。そのためには、経験が豊富で山手地区のことをよく知っている方がまちづくりコーディネーターとして関わってくれることが重要です。さらにまちのルールづくり相談センターや山手地区をよく知っている行政の担当者存在など、行政の支援体制も必要です。今後の課題は、町内会・自治会に未加入の住民や開発業者に対して、協定をどのようにPRしていくかということです。



●洋光台まちづくり協議会(磯子区)

洋 光台は、住宅公団が40年前に建設した約200haの住宅地です。当時日本でもまだ珍しかったニュータウンで、立地が交通の便が良く、防災上は比較的安全ですが、それが却って通過交通を増やしたり、どろぼうに狙われやすく防犯に取り組まざるを得なかったりしています。戸建住宅の老朽化によるスプロール化が進み、100坪以上の敷地が相続の問題などで細分化されてきています。

こうした地域の衰退を懸念して集まった人たちが10年前に「洋光台21世紀を作る会」が発足し、3年前に「まちづくり協議会」へと改組しました。

洋 光台まちづくり協議会は洋光台の連合町内会と表裏1体の関係です。まちづくり協議会は、連合町内会を構成する17町内会と個人の公募も募って設立し、その年ごとの課題に協議会として取り組んでいます。

例えば、洋光台には水辺がありません。5年前、子どもたちにアンケートを行ったところ、「水がほしい」という意見がありました。そこで、市の土地である2haの緑地と湧水を生かさないかと、市の協力を得て、昨年末とんぼ池をつ



きとしたいと考え
ています。

の他、ガーデニングを楽しむ人も多いので、ガーデニ

引き
の再
備
そ

●西戸部2丁目第1・羽沢西部いえ・みち・まち改善事業勉強会(西区)

((仮称)一本松まちづくり協議会)

こ の地域は、野毛山動物園に隣接した地域で、都心から徒歩圏内という便利な場所ですが、防災上は多くの課題がある地域です。バス通りの2本以外は細い道で、住宅が密集しており、階段や坂が多い谷のまちです。広域避難場所は山の上の野毛山公園となっていますが、実際に災害が起こったときに、野毛山公園まで逃げていくことができるのだろうか、ということが活動の出発点でした。

1 年半ぐらい前に勉強会を始め、学習会を行い、阪神大震災のビデオを見たり、地域の高低差が分かる地形模型をつくったりしました。山の上と下は45メートルの高低差があります。擁壁が多い、老朽化した家が多い、空き家が多い、公園や空き地がないなどの具体的な課題が見えてきました。一方で、模型づくりを通して2つの町内会の関係は強まりました。今後はまちづくり協議会に発展させたいと準備中です。



●東久保町夢まちづくり協議会(西区)

東 久保町は3つの町内会で構成される地域で、3町内会は敬老会を合同で開催するようになってきていました。この地域の一部は昭和25年に大規模な区画整理があり、バス路線も整備されましたが、裏通りは狭く住宅が密集しています。高齢化が進み、老朽化した空き家も見られます。

横 浜市から防災上改善すべき課題があると「いえ・みちまち改善事業」(注1)の区域の指定を受け、3町内会で1年間まち歩きなどの勉強を続けました。そして平成17年7月には、「東久保町夢まちづくり協議会」を設立しました。

毎月1回役員会を開いているほか、まちづくり検討会を随時開き、3町内会から60名が集まり、まちづくりアンケート調査や整備事業の検討などを行っています。

まちづくりアンケート調査は、1669世帯の全戸に配付し、住まいの安全対策や建て替え、良く使う道や避難に使う道、まちづくりについてなどを聞きました。回収率は60%となり集計結果を全戸配布する予定です。このアンケート結果から課題をひとつずつ解消しようと、現在役員会で検討中です。

整 備事業としては、緊急的な事業を立案し、整備事業費の捻出のために、各町内会でついたり、お祭りのフリーマーケットにまちづくり協議会として出店することを計画しています。

課題としては、3町内会の意見をまとめることが難しいこと、事業のための資金を集めること、住民の中で町内会の行事と協議会の活動が混同されていることなどがありますが、あせらず長期的な展望にたって、工夫をこらして、安全で住み良いまちづくりを進めたいと思います。



●三春の丘いえ・みち・まち応援隊(南区)

三 春の丘いえ・みち・まち応援隊は、三春台地区の2つの町内会で構成されています。平成16年からこれまでに17回の勉強会を行ってきました。三春台地区は、高齢者が多く人口密度が高い地域です。

まちの点検をすると、崖崩れがそのままになっていたり、ブロック塀のひび割れ、消防車も入らないような狭い道、急傾斜地に建つ家など、多くの課題があります。

平 成17年12月には、近隣の町内会など広い範囲にお知らせして、三春の丘地震・防災フェスティバルを開催しました。子ども会や公園清掃のグループなどの地域活動ともジョイントし、100名をこえる参加がありました。

防 災の取組は、まちの基盤づくりのチャンスです。整備しなければならぬところを着実に改善していくためには、行政やまちづくり支援団体(注2)との連携が欠かせません。今はまだ、まちづくり活動や町内会活動への地域住民の理解が十分とは言えません。今後、団塊の世代の方々にも参加してもらうために、花壇づくりなどにも取り組んでいこうと考えています。

●本郷町3丁目地区防災まちづくり勉強会(中区)

平 成17年3月に、本郷町3丁目の第1町内会、第2町内会が合同で横浜市の「いえ・みち まち改善事業」(注1)の勉強会が始まりました。その後、10回の勉強会を行ってきましたが、その中で行った町内の再発見ウォーキングでは、地図上に自慢できるところや改善すべき点などを落としました。自慢できるところは、バイブリッジが見えるなど景色の良いところや、地域に災害用の井戸が10数箇所もあること、緑が多いことなどです。

こうした成果は、毎月発行している防災まちづくりニュースでお知らせしています。住民からも多く反響があります。

ま た、防災まちづくりのアンケートを両町内会1100戸に全戸配布し、50%近い回答を得ました。その中に、街路灯の点検という意見がありました。さっそく行政に要望したところ実現し、住民に感動を与えています。

地域には、坂道、階段、細い道、行きどまりが多く、高齢者や障害者はどうやって一時非難場所に行けばいいのかなど課題となっています。東京ガスの跡地を防災拠点や公園にしてほしいという願いもあります。行政といっしょになって考えていきたいと思います。

防 災まちづくり勉強会に出てくる方が決まっていって参加者が増えないことが悩みです。今後、住民主体のまちづくり会へと移行させたいと思っていますが、地域住民の負担が増えるのではないかという不安や、町内会と協議会の違いがわかりにくいといった課題もあります。



●滝頭・磯子まちづくり協議会(磯子区)

こ の地域には、狭隘道路や老朽化した住宅、空き家などがあふれています。平成15年から滝頭連合町内会と磯子連合町内会が合同で防災を中心とした勉強会を始め、平成17年6月にまちづくり協議会を結成しました。

勉 強会では、4回のまち歩きを行い、地域の課題を抽出しました。広報部会には、各町内から広報にたけた方に参加してもらい、現在までに3号のニュースを発行し、町内会を通じて全戸配布しています。

行政やまちづくり支援団体(注2)の方とも連携し、地元消防団や消防署も協力してくれます。

大 きな成果だったのは、地区内の学校がセットバックしたことです。住民がセットバックしているのですから、行政にも協力してもらう必要があると区長から教育委員会にかけあってもらい、学校もセットバックすることになりました。現在の課題は活動が町内会役員に限定されてしまうことです。警察や小学校にも協力してもらい、夜間も安全なまちづくりをめざしたいと思います。



【注1】 いえ・みち まち改善事業

横浜市では、平成15年から、防災上課題のある密集住宅地の改善のために「いえ・みち まち改善事業」を推進しています。延焼危険度・倒壊危険度等の客観基準により23地区660ヘクタールを選定し、住民への情報提供を行うとともに、住民による「勉強会」を経て「まちづくり協議会」を設立し、防災まちづくり計画の策定や改善メニューの実践を行っています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/iemichimachi/index.html>

【注2】 まちづくり支援団体

まちづくり支援団体とは、地区計画や都市計画提案制度、再開発事業などに関して、市民・まちづくり団体からの相談受付や初動期の活動支援を行う団体です。詳しくは「ヨコハマ人・まち」第15号をご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/no15.html



★「ヨコハマ人・まち」への情報提供を募集します。

- ・まちづくりに関わるイベントや参加者募集などPRしたいこと
- ・地域で行っているまちづくりの取り組み

●情報提供はこちらへ

横浜市都市整備局 地域事業部 地域整備支援課
Tel:045-671-2696 Fax:045-663-8641
Email:tb-chiikimachi@city.yokohama.jp



「まちづくり」とか「協働」の話の中で、最近「住民自治」という言葉をよく耳にされるのではないかと思います。神奈川県内では大和市が「住民自治区」の導入を進めているそうです。「自治」を辞書で調べてみると、「自分や自分たちに関することを自らの責任において処理すること（大辞泉より）」という意味だそうです。そうすると「住民自治」は、「住民が自分たちでできるものは自分たちで担う」ばかりでなく、自分たちで行ったことに「自分たちの責任」を持たなければならないということになります。

結構重たい話になりましたが、前向きに捉えようと、地域の力を存分に発揮できる時代が到来したと考えられるのではないのでしょうか。今こそ地域に隠れた人材を見つけながら、みんなで知恵や時間などを出し合って地域の課題に取り組んでみませんか。やってみると目に見えて地域コミュニティが活発になったりして楽しいですよ。

(地域整備支援課 肥山)

★「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メルマガ参加のお誘い大歓迎です。

★「まちづくりパンフレットダウンロード」ページ

http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/minna/05_download.html

から、「地域まちづくり推進条例」「地域まちづくり支援制度」のパンフレットをダウンロードできるようになりました。

★メールマガジンの配信申し込みは、下記のアドレスからお願いします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

